2026 年 11 月 5 日
セイコーエプソン株式会社

2026 年度　第 2 四半期決算説明会
主な質疑応答

Q：第 2 四半期の事業利益が社内計画を上回ったが、セグメント別の内訳を教えてほしい。
A：社内計画を 90 億円程度上回った。このうち、為替によるプラス影響は 30 億円程度である。セグメント別には、プレシジョンイノベーションとオフィス・ホームプリンティングは計画を上回り、インダストリアル＆ロボティクスとビジュアル＆ライフスタイルは計画並みだった。

Q：オフィス・ホームプリンティングにおける部材調達問題の状況と、下期業績への影響を教えてほしい。
A：今回下期に想定している部材調達問題は、市況全体における部材不足ではなく、特定の取引先から予定していた数量の部品を確保できないことによるものであり、第 3 四半期後半から影響が生じることを想定している。この影響により、通期では販売数量を 60 万台程度引き下げる見込みだが、対象部品の確保に向けて取引先への働きかけなどを進めて、業績への影響をできる限り抑えていく。

Q：通期業績予想において、前年度と比較してコスト増となっている「部材・輸送費変動」の 500 億円について、前回予想からの変化の内訳を教えてほしい。
A：前回予想では、部材・輸送費変動による前年度からの費用増加を 380 億円としていたが、今回は 120 億円増の 500 億円を見込んでいる。120 億円の増加の内訳は、メモリ価格の上昇による影響が 60 億円、原油価格 20 億円、貴金属などによる影響が 40 億円である。

Q：水晶デバイスのネットワーク向け需要の状況と、今後の見通しについて教えてほしい。
A：ネットワーク向けでは、高性能品を中心に需要が拡大している。水晶デバイスの売上に占める割合はおおよそ 2 割であり、売上も第 1 四半期から第 2 四半期にかけて伸長している。特に高性能品については、顧客の中長期的な要望に応えられるように製品開発・供給を進めている。こうした製品の比率を高めることで、事業の成長につなげていく。

Q：ネットワーク向けの需要拡大に対して、生産能力をどのように高めていくのか。
A：前年度末からの需要の高まりを受け、ボトルネックとなっている製造工程への対応や生産性向上に向けた設備投資を進めるとともに、高性能・高付加価値製品に生産能力を振り向けている。

Q：光トランシーバーの通信速度が 800Gbps から 1.6Tbps へ高速・大容量化する中、どのように対応していくのか、また、水晶デバイスの競争力について教えてほしい。
A：800Gbps に加えて 1.6Tbps 向けの製品もすでにラインアップし、販売は開始されている。通信容量は今後さらに大容量化していくとみており、技術ロードマップに沿って高性能製品の開発を進めている。高速化が進むほどクロック信号には高い精度が求められる。エプソンは、水晶デバイスの加工技術と半導体の設計技術を組み合わせることで優れた顧客価値を実現しており、ハイエンド領域で競争力を発揮できると考えている。

以上